

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019051767		
法人名	医療法人社団 翔嶺館		
事業所名	グループホーム白石館 1階①ユニット		
所在地	札幌市白石区川下1条8丁目2-18		
自己評価作成日	2025年12月5日	評価結果市町村受理日	2026年1月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0190501767-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0190501767-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営しているグループホームになります。入居者24人の3ユニットで職員勤務は日勤、早番、遅番、夜勤の4交代制で介護、食事づくり等を実施しています。特色としては、系列の病院による訪問診療、看護師による訪問相談が定期的に受けられ、慢性疾患を抱える高齢者の方、医療ニーズがある方でも医療で心配することなく生活を送ることができる施設です。日常のサービスでは入居者様のできる部分を引き出し日常生活内に取り入れ生活の質の向上に努めています。日常生活動作が低下しないように自立支援を心掛けて介護に携わっています。入居者様の持つ力を最大限引き出せるように介護方法を常に模索しそれぞれの入居者様にあった役割や活動を提供しています。日々の暮らしが安心して過ごすことが出来るよう配慮しています。今年度は、コロナ5類になってから3年目となり、外出行事や外部との交流を試みておりました。秋の遠足で北海道博物館や開拓の村に外出を行ったり、夏祭りの行事に合わせて太鼓演舞のクラブをお呼びするなどしております。また、毎月入居者様の誕生日会や各フロアでの行事を行い、入居者様の生活が楽しみのあるものを提供出来るようご支援しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム白石館」は、白石区のバス通りに面した静かな住宅に立地している2階建て3ユニットの事業所である。1階は玄関と事務所を中心に6名と9名の2ユニットで、2階が9名のユニットとなっている。大きな窓から明るい光が注いでいる居間の壁には、利用者と一緒に制作したクリスマスツリーや立体的な作品が綺麗に飾られている。感染症の流行により地域行事に参加する機会は少なくなっているが、子ども花火大会に花火を差し入れて手紙や飲み物のお礼を受け取るなどの交流が行われている。運営推進会議は年度初めに年間テーマを設定して開催し、事業所の報告に関して参加者から質問や意見が活発に出されている。外出支援では、日々の散歩の他、季節に応じて開拓の村や野幌森林公園などに積極的に出かけて気分転換を図っている。年間行事も職員が色々工夫を凝らしながら開催し、利用者に楽しいひと時を提供している。食事はバイキングや寿司のテイクアウト、職員手作りの敬老会弁当など多彩な献立で利用者の楽しみとなっている。毎月、広報紙と個別の手紙で利用者の状況を細かく伝えており、家族からも喜びの声が寄せられている。管理者を中心に全職員で利用者一人ひとりの情報を詳細に把握し、本人の思いに寄り添った丁寧なケアを行っており、家族からの信頼も厚いグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階①ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスならではの理念であると共に、その理念に基づいた支援を常に意識し実践に努めている	事業所独自の理念に「ご家族や地域との結びつきを大切に」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。玄関や各ユニット、事務所に掲示して入職時に説明し、会議や日々の業務の中でも確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナも5類となりました、高齢者施設であるため一定の面会制限を行っているので、思うように交流はできませんでした。夏祭りに合わせて太鼓クラブをお呼びし演舞を披露して頂きました。感染症に配慮し地域との交流や活動が行っていきけるようにしたいと思います。	感染症の流行により地域行事に参加することは少なくなっているが、町内会の子ども花火大会に花火を差し入れてお礼の手紙や飲み物を受け取っている。散歩で近隣住民と挨拶を交わしたり、公園で話をすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くはないが、電話での問い合わせや施設入所についての助言を行っている。認知症の研修や日々の実践で培った技術を地域に活かせる機会を持ちたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、地域包括支援センター、民生委員、地域代表者、参加希望のあるご家族様を交え、情報交換や活用の評価などを行っています。地域の会館をお借りし会議を実施することで地域貢献につなげています。	毎回テーマを設けて開催し、参加者と意見交換している。テーマにそった質疑応答が議事録に反映されていないので、今後は記録を充実させたいと考えている。テーマにそった資料も議事録と一緒に全家族に送る予定である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の集団指導はオンラインで参加している。管理者連絡会へ参加していましたが、今年度はすべて中止になったので、都度疑問に思うことやわからないことがあるときに問い合わせしている。	行政手続きは本部で行っている。管理者は役所の生活保護担当者と定期的に情報交換したり、医療券や認定調査などに関して連絡している。各種サービスの手続きは郵送で行っているが、いつでも相談できる関係を普段から築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を実施し「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ、研修会を実施し拘束を行うことにより、どのような影響があるのか等理解を深めている。ケアの実際で職員同士声を掛けあい不適切ケアが無いよう取り組んでいる。	「禁止の対象となる具体的な行為」を記載した指針を整備し、勉強会でも確認している。勉強会の研修報告書綴りに研修内容を明記し、資料も添付したいと考えている。3か月ごとに法人合同で委員会を開催している。玄関の鍵は夜間のみ施錠し、普段から閉塞感を感じないように柔軟に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に「虐待防止身体拘束排除マニュアル」にて研修会を開き日常のケアにおいての言葉遣いや介助の行い方で不適切なケアになっていることを伝えている。常に意識し防止に努めている。		

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階①ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を使っていらっしゃる入居者様がいいらっしゃるので良い機会になった。入居者様一人ひとりの尊厳を保持し、安心して暮らしていけるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に基づいて説明を行い疑問や不安が無いかを確認している。また、改定等があったときには、説明を行い同意をえています。退居時も、退去先への継続的な支援をして頂けるよう情報提供している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様が意見を言いやすい様、些細なことでも相談や報告を行うよう心掛けている。ケアプラン更新時にもご要望をお聞きしている。運営推進会議の年間のテーマをお知らせし出席できないご家族様のご意見も会議に反映させるよう取り組んでいる。	面会時や電話で利用者の様子を伝えて家族の意見や要望を聞き取り、些細なことも要望書に記録して情報を共有している。毎月、写真入りの「ふらわあーだより」と個別の手紙で利用者の様子を家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と面談を行い不満や思い等聴き話し合っている。都度、提案や意見をもらい反映させている。	会議や業務の中で職員の意見や提案を聞き取り、ケアや業務改善などに活かしている。年1回、管理者と本部役職者で職員の個別面談を行っている。職員はお便りや装飾、行事などの係を担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人職員と管理者で契約更新時、職員と面談し勤務状況や要望の把握に努めている。時間外についても出しやすい環境に努め処遇改善手当についても毎月の給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し個人によっては、時間を掛ける、外部や内部の研修に参加させたり、初任者研修や実務者研修を受講させスキルアップが出来るよう取り組んでいる。また、研修で得た知識を施設内で伝達研修を行い共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修に参加し意見交換をしている。法人のグループホーム運営推進委員会にて、各グループホームの委員が集まり情報交換や意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階①ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談させて頂き不安や困っている事、要望に耳を傾け安心できる関係作りに努めている。入所後は大きく環境が変わるので関りを多く持てるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から、不安や要望をお聞きし不安が軽減できるよう、出来る限り意向に添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人やご家族の意向を踏まえ、主治医やソーシャルワーカーの意見も参考にし必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとり能力や好みに応じ、食事の支度や掃除など日常生活の中で活躍の場を提供し、無理なく役割が持て自信を持った暮らしができるよう支援しています。入居者様と職員の良い関係を構築している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間制限はありますが、対面での面会を行ったり広報やお便りなど送りホームでのご様子を伝えている。また、ご家族様が参加できる行事への声掛けを行いご本人と一緒に時間を過ごせる機会を増やしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症が懸念される為、外部との交流は見合わせている。	馴染みの知人や友人と交流している方は居なくなったが、家族の面会や遠方の親族から電話が来る利用者がある。家族と一緒に自宅へ帰ったり、買い物や外出に出かけている。寺や墓参りに行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格やそれぞれの関係性を把握し職員がさりげなく関わりながら入居者様同士良い関係が築けるよう支援している。一人が好きに入居者様には、無理強いせず自分のペースで過ごせるよう支援している。また、孤立しないよう皆で楽しめるレクリエーション等を考え行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階①ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了されたご家族様にもいつでも連絡できるようお声がけし、ご家族からの相談が有れば、施設で出来る範囲の支援は出来る事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から、ご本人の思いや意向をくみ取り意思疎通が難しい方でも表情や行動、生活歴やご家族様から情報を頂いたりして、カンファレンスやミーティングで話し合い意向に添った支援に繋がっている。	会話や仕草、目の表情などから把握したり、利用者に合わせた聞き方を工夫して思いや意向を読み取っている。趣味や嗜好を新たに把握した時は介護記録に記入しているが、全職員で把握しやすい記録とは言えない状況である。	日々のケアや介護計画の見直しに活かせるように、趣味や嗜好などの記録を見やすく整備するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様や関係機関からこれまでの暮らしの情報を頂き入居後もご本人との関わりの中で可能な範囲で馴染みの生活に近付けるように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察、記録を行い現状の把握に努め職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の過ごし方、ご本人の言動、職員の関わり方に関する反応や活動でのご本人の力量などカンファレンスで話し合い、ご家族様とは電話や面会時にご意向をお聞きし医師や訪問看護師の助言も踏まえ介護計画書を作成している。	利用者を担当する職員が記録した3か月ごとの評価を基に、計画作成担当者を中心に6か月ごとに検討して介護計画を作成している。今後も家族の意向を具体的に聞き取り、更に介護計画に反映させたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一週間を通して毎日の様子が分かるよう記録し情報を職員間で共有している。特記事項については細かく介護記録に記載している。変化への対応や必要性を踏まえ介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な訪問診療以外に、突発的な受診の対応やご家族様の状況に合わせて受診送迎等を行っている。その時々状況に合わせてご本人が安全、安心であるよう柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は、コンビニや洋服を買いに商業施設へお連れしていましたが、現在は人混みを避け公園の散歩や屋外での活動を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から定期的に医師の訪問診療がある。また、希望される病院受診の時は、ご家族様対応になりますが、外出準備送迎等の支援を行っている。	月2回、協力医療機関の訪問診療を全員が受けている。家族と専門医やかかりつけ医に通院する時は、状況に応じて健康状態を書面で伝えている。訪問診療と通院の状況は個別に記録している。	

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階①ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問相談があり、日常の変化や状況を報告し、医師の指示や必要であれば、受診へつなげられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に必要な情報を提供し、入院治療中には回復状況や退院のめどについての情報を得て、医療機関と連携しながら、早期退院へつなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「入居者様の病状が重度化した場合の医療体制指針」について説明し、協力医療機関やソーシャルワーカーと連携しながら、ご家族様と相談し意向に添うように支援している。	利用開始時に、重度化の指針にそって事業所の対応について説明している。利用者の体調変化に応じて主治医と家族、事業所で方針を話し合い、家族の意向にそって適切な施設に移行できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している。救命救急の講習にも参加し緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。夜間想定避難訓練は毎年行っている。災害時の備蓄品等も整備している。 地震などの災害を想定し3ユニット合同で実施をしています。	年2回、昼夜を想定した地震や火災の避難訓練を自衛消防訓練サポートセンターの協力で実施している。災害時のケア別対応、地震災害時の室内危険箇所も確認している。今後、職員の救命講習を計画的に実施する予定である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、食事等日常のケアにおいて、プライバシーに配慮した言葉かけ等入居者様の意志を尊重した対応をしている。入居者様への対応が職員間で共有できるようミーティングで話し合っている。	年1回の接遇研修や新入職員研修を通じ、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応を意識している。申し送り時には氏名を用いず、部屋番号で表現しプライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや一人ひとりの状態に合わせて選択できるようにしている。意思疎通が難しい方は表情や仕草から思いをくみ取るようにしている。入居者様が思いや希望を表し易い環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし体調やその日の状況や気分に応じて臨機応変に対応し、できるだけ希望に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や訪問美容師でのカットや毛染めの手配など対応している。日々の整容では髪を梳かす、髭を剃る、爪を切る等支援している。		

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階①ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮をむいたり、刻んだり味付けやホットプレートで焼いて頂く等、入居者様も巻き込むことで食への興味を持ってくださっています。コミュニケーション取りながら、職員や他利用者様と食事をした後片付けも手伝って頂いています。	普段の食事は職員が手作りし、温かく家庭的な雰囲気の中で提供している。行事の際にはグラタンや卵焼きなど多彩な献立を用意し、バイキング形式で選ぶ楽しさを取り入れるなど、食事を楽しめる工夫と手間を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社より、栄養士が作った栄養バランスの良いメニューに添って、材料が届きます。食事形態もお粥やミキサー食、トロミなど食べる方に合わせて提供している。水分チェック表を活用し水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い磨き方が不十分な方には仕上げ磨きをさせて頂いています。夜間は義歯を預かり洗浄剤で消毒し、歯磨きコップや歯ブラシの消毒を行い、清潔を保っている。協力歯科の医師や歯科衛生士に清潔に保つための助言を頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、誘導を行い排泄の失敗を減らすように努めている。	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄間隔を把握しながら適切なタイミングで声かけを行い支援している。排泄チェック表はデータで記録するとともに書面でも作成し、職員がすぐに確認できる体制を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響を理解し、水分摂取や食事の工夫など自然排便を促すようにしている。腹部マッサージや体操も取り入れている。栄養士にも相談し食物繊維なども取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて対応している。気持ちよく入浴して頂けるよう個人の希望に合わせた支援をしている。	午前中に1人あたり週2回の入浴を基本とし、車いすを利用する方にも対応できるよう機械浴を導入している。全員が浴槽に入ることができる環境を整え、歌を歌うなど和やかな雰囲気づくりを行い、安心して楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後に自ら休む方や日中、疲労感ある方は居室で休息をと取る入居者様もおられます。生活リズム、睡眠リズムを整えて頂く為の取り組みを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表を活用し、飲み忘れや間違いが無いかに注意している。効能や副作用について 処方箋は個人ファイルに綴ってあるのでいつでも見られる環境にあります。ふらつき等強く出るようなときは注意喚起しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけ無理なく役割を持つ(食器拭きや掃除等)活躍できる場を提供している。お酒などの楽しみごとともご家族様と相談しながら提供しています。レクや外気浴などで気分転換を図っている。		

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階①ユニット)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度は、外出行事として北海道博物館に出かけたりしています。春先になると桜を見に散歩に出かけています。その時々や入居者様の気持ちに寄り添い外出できるようにしています。	車いすを利用する方も近隣の公園への散歩や週1回の外出を行っている。外出が難しい場合でも玄関先のベンチで過ごしたり、洗濯物の取り込みを通して外気に触れている。また、野幌森林公園へ紅葉見学に出かけるなど、季節を感じられる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと金銭管理は行わず、外出時の買い物があれば建て替えを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をご家族や知人に出したり、出すための支援(住所を書いて差し上げる等)を行っている。電話も相手の迷惑でなければ取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度、湿度など適宜調節している。入居者様と一緒に季節の飾り物を作り、フロアや廊下に飾り居心地の良い空間作りを心掛けている。場所が分かるための札付けの工夫など安全且つ清潔に配慮した空間づくりを心掛けている。	共用空間には、職員と利用者が共同で制作した季節の作品を飾り、家庭的で温かみのある雰囲気になっている。利用者の折り鶴を職員が工夫して暖簾にするなど、参加意識を大切にしている。また、夏場は冷房の風が直接当たらないように調整し、体調管理に配慮した居心地のよい空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファやテーブルが置いてあり、気の合う方たちとお話をしたりカウンター席で一人で過ごすこともできるよう工夫している。基本的には自由に居場所を選んで過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し日頃より使い慣れたもの馴染みの物を持参されるよう説明しています。写真や思い出の品を飾り安心して生活する事が出来るよう工夫している。	利用者が使い慣れたタンスやクッション、寝具などを居室に持ち込み、これまでの生活の延長として安心して暮らしている。家族の写真などを飾ることで、親しみのある空間となり、居心地よく過ごせる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがありトイレやお風呂が分かりやすい目印がついており、車いす用の洗面台も設置している。安全に生活できるよう環境の整備に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019051767		
法人名	医療法人社団 翔嶺館		
事業所名	グループホーム白石館 1階②ユニット		
所在地	札幌市白石区川下1条8丁目2-18		
自己評価作成日	2025年12月5日	評価結果市町村受理日	2026年1月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyCd=0190501767-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyCd=0190501767-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営しているグループホームになります。入居者24人の3ユニットで職員勤務は日勤、早番、遅番、夜勤の4交代制で介護、食事づくり等を実施しています。特色としては、系列の病院による訪問診療、看護師による訪問相談が定期的に受けられ、慢性疾患を抱える高齢者の方、医療ニーズがある方でも医療で心配することなく生活を送ることができる施設です。日常のサービスでは入居者様のできる部分を引き出し日常生活内に取り入れ生活の質の向上に努めています。日常生活動作が低下しないように自立支援を心掛けて介護に携わっています。入居者様の持つ力を最大限引き出せるように介護方法を常に模索しそれぞれの入居者様にあった役割や活動を提供しています。日々の暮らしが安心して過ごすことができるよう配慮しています。今年度は、コロナ5類になってから3年目となり、外出行事や外部との交流を試みておりました。秋の遠足で北海道博物館や開拓の村に外出を行ったり、夏祭りの行事に合わせて太鼓演舞のクラブをお呼びするなどしております。また、毎月入居者様の誕生日会や各フロアでの行事を行い、入居者様の生活が楽しみのあるものを提供出来るようご支援しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階②ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスならではの理念であると共に、その理念に基づいた支援を常に意識し実践に努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナも5類となりました、高齢者施設であるため一定の面会制限を行っているので、思うように交流はできませんでした。夏祭りに合わせて太鼓クラブをお呼びし演舞を披露して頂きました。感染症に配慮し地域との交流や活動が行っていけるようにしたいと思えます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くはないが、電話での問い合わせや施設入所についての助言を行っている。認知症の研修や日々の実践で培った技術を地域に活かせる機会を持ちたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、地域包括支援センター、民生委員、地域代表者、参加希望のあるご家族様を交え、情報交換や活用の評価などを行っています。地域の会館をお借りし会議を実施することで地域貢献につなげています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の集団指導はオンラインで参加している。管理者連絡会へ参加していましたが、今年度はすべて中止になったので、都度疑問に思うことやわからないことがあるときに問い合わせしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を実施し「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ、研修会を実施し拘束を行うことにより、どのような影響があるのか等理解を深めている。ケアの実際で職員同士声を掛けあい不適切ケアが無いよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に「虐待防止身体拘束排除マニュアル」にて研修会を開き日常のケアにおいての言葉遣いや介助の行い方で不適切なケアになっていることを伝えている。常に意識し防止に努めている。		

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階②ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を使っていらっしゃる入居者様がいいらっしゃるので良い機会になった。入居者様一人ひとりの尊厳を保持し、安心して暮らしていけるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に基づいて説明を行い疑問や不安が無いかを確認している。また、改定等があったときには、説明を行い同意をえています。退居時も、退去先への継続的な支援をして頂けるよう情報提供している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様が意見を言いやすい様、些細なことでも相談や報告を行うよう心掛けている。ケアプラン更新時にもご要望をお聞きしている。運営推進会議の年間のテーマをお知らせし出席できないご家族様のご意見も会議に反映させるよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と面談を行い不満や思い等聴き話し合っている。都度、提案や意見をもらい反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人職員と管理者で契約更新時、職員と面談し勤務状況や要望の把握に努めている。時間外についても出しやすい環境に努め処遇改善手当についても毎月の給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し個人によっては、時間を掛ける、外部や内部の研修に参加させたり、初任者研修や実務者研修を受講させスキルアップが出来るよう取り組んでいる。また、研修で得た知識を施設内で伝達研修を行い共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修に参加し意見交換をしている。法人のグループホーム運営推進委員会にて、各グループホームの委員が集まり情報交換や意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階②ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談させて頂き不安や困っている事、要望に耳を傾け安心できる関係作りに努めている。入所後は大きく環境が変わるので関りを多く持てるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から、不安や要望をお聞きし不安が軽減できるよう、出来る限り意向に添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人やご家族の意向を踏まえ、主治医やソーシャルワーカーの意見も参考にし必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとり能力や好みに応じ、食事の支度や掃除など日常生活の中で活躍の場を提供し、無理なく役割が持て自信を持った暮らしができるよう支援しています。入居者様と職員の良い関係を構築している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間制限はありますが、対面での面会を行ったり広報やお便りなど送りホームでのご様子を伝えている。また、ご家族様が参加できる行事への声掛けを行いご本人と一緒に時間を過ごせる機会を増やしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症が懸念される為、外部との交流は見合わせている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格やそれぞれの関係性を把握し職員がさりげなく関わりながら入居者様同士良い関係が築けるよう支援している。一人が好きに入居者様には、無理強いせず自分のペースで過ごせるよう支援している。また、孤立しないよう皆で楽しめるレクリエーション等を考え行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階②ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了されたご家族様にもいつでも連絡できるようお声がけし、ご家族からの相談が有れば、施設で出来る範囲の支援は出来る事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から、ご本人の思いや意向をくみ取り意思疎通が難しい方でも表情や行動、生活歴やご家族様から情報を頂いたりして、カンファレンスやミーティングで話し合い意向に添った支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様や関係機関からこれまでの暮らしの情報を頂き入居後もご本人との関わりの中で可能な範囲で馴染みの生活に近付けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察、記録を行い現状の把握に努め職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の過ごし方、ご本人の言動、職員の関わり方に関する反応や活動でのご本人の力量などカンファレンスで話し合い、ご家族様とは電話や面会時にご意向をお聞きし医師や訪問看護師の助言も踏まえ介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一週間を通して毎日の様子が分かるよう記録し情報を職員間で共有している。特記事項については細かく介護記録に記載している。変化への対応や必要性を踏まえ介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な訪問診療以外に、突発的な受診の対応やご家族様の状況に合わせて受診送迎等を行っている。その時々状況に合わせてご本人が安全、安心であるよう柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は、コンビニや洋服を買いに商業施設へお連れしていましたが、現在は人混みを避け公園の散歩や屋外での活動を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から定期的に医師の訪問診療がある。また、希望される病院受診の時は、ご家族様対応になりますが、外出準備送迎等の支援を行っている。		

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階②ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問相談があり、日常の変化や状況を報告し、医師の指示や必要であれば、受診へつなげられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に必要な情報を提供し、入院治療中には回復状況や退院のめどについての情報を得て、医療機関と連携しながら、早期退院へつなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「入居者様の病状が重度化した場合の医療体制指針」について説明し、協力医療機関やソーシャルワーカーと連携しながら、ご家族様と相談し意向に添うように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している。救命救急の講習にも参加し緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。夜間想定避難訓練は毎年行っている。災害時の備蓄品等も整備している。 地震などの災害を想定し3ユニット合同で実施をしています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、食事等日常のケアにおいて、プライバシーに配慮した言葉かけ等入居者様の意志を尊重した対応をしている。入居者様への対応が職員間で共有できるようミーティングで話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや一人ひとりの状態に合わせて選択できるようにしている。意思疎通が難しい方は表情や仕草から思いをくみ取るようにしている。入居者様が思いや希望を表し易い環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし体調やその日の状況や気分に応じて臨機応変に対応し、できるだけ希望に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や訪問美容師でのカットや毛染めの手配など対応している。日々の整容では髪を梳かす、髭を剃る、爪を切る等支援している。		

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階②ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮をむいたり、刻んだり味付けやホットプレートで焼いて頂く等、入居者様も巻き込むことで食への興味を持ってくださっています。コミュニケーション取りながら、職員や他利用者様と食事をした後片付けも手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社より、栄養士が作った栄養バランスの良いメニューに添って、材料が届きます。食事形態もお粥やミキサー食、トロミなど食べる方に合わせて提供している。水分チェック表を活用し水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い磨き方が不十分な方には仕上げ磨きをさせて頂いています。夜間は義歯を預かり洗浄剤で消毒し、歯磨きコップや歯ブラシの消毒を行い、清潔を保っている。協力歯科の医師や歯科衛生士に清潔に保つための助言を頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、誘導を行い排泄の失敗を減らすように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響を理解し、水分摂取や食事の工夫など自然排便を促すようにしている。腹部マッサージや体操も取り入れている。栄養士にも相談し食物繊維なども取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて対応している。気持ちよく入浴して頂けるよう個人の希望に合わせた支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後に自ら休む方や日中、疲労感ある方は居室で休息をと取る入居者様もおられます。生活リズム、睡眠リズムを整えて頂く為の取り組みを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表を活用し、飲み忘れや間違いが無いかに注意している。効能や副作用について 処方箋は個人ファイルに綴ってあるのでいつでも見られる環境にあります。ふらつき等強く出るようなときは注意喚起しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけ無理なく役割を持って(食器拭きや掃除等)活躍できる場を提供している。お酒などの楽しみごとともご家族様と相談しながら提供しています。レクや外気浴などで気分転換を図っている。		

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階②ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度は、外出行事として北海道博物館に出かけたりしています。春先になると桜を見に散歩に出かけています。その時々や入居者様の気持ちに寄り添い外出できるようにしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと金銭管理は行わず、外出時の買い物があれば建て替えを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をご家族や知人に出したり、出すための支援(住所を書いて差し上げる等)を行っている。電話も相手の迷惑でなければ取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度、湿度など適宜調節している。入居者様と一緒に季節の飾り物を作り、フロアや廊下に飾り居心地の良い空間作りを心掛けている。場所が分かるための札付けの工夫など安全且つ清潔に配慮した空間づくりを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファやテーブルが置いてあり、気の合う方たちとお話をしたりカウンター席で一人で過ごすこともできるよう工夫している。基本的には自由に居場所を選んで過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し日頃より使い慣れたもの馴染みの物を持参されるよう説明しています。写真や思い出の品を飾り安心して生活する事が出来るよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがありトイレやお風呂が分かりやすい目印がついており、車いす用の洗面台も設置している。安全に生活できるよう環境の整備に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	019051767		
法人名	医療法人社団 翔嶺館		
事業所名	グループホーム白石館 2階ユニット		
所在地	札幌市白石区川下1条8丁目2-18		
自己評価作成日	2025年12月5日	評価結果市町村受理日	2026年1月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyCd=0190501767-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyCd=0190501767-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営しているグループホームになります。入居者24人の3ユニットで職員勤務は日勤、早番、遅番、夜勤の4交代制で介護、食事づくり等を実施しています。特色としては、系列の病院による訪問診療、看護師による訪問相談が定期的に受けられ、慢性疾患を抱える高齢者の方、医療ニーズがある方でも医療で心配することなく生活を送ることができる施設です。日常のサービスでは入居者様のできる部分を引き出し日常生活内に取り入れ生活の質の向上に努めています。日常生活動作が低下しないように自立支援を心掛けて介護に携わっています。入居者様の持つ力を最大限引き出せるように介護方法を常に模索しそれぞれの入居者様にあった役割や活動を提供しています。日々の暮らしが安心して過ごすことが出来るよう配慮しています。今年度は、コロナ5類になってから3年目となり、外出行事や外部との交流を試みておりました。秋の遠足で北海道博物館や開拓の村に外出を行ったり、夏祭りの行事に合わせて太鼓演舞のクラブをお呼びするなどしております。また、毎月入居者様の誕生日会や各フロアでの行事を行い、入居者様の生活が楽しみのあるものを提供出来るようご支援しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	2025年12月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスならではの理念であると共に、その理念に基づいた支援を常に意識し実践に努めている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナも5類となりました、高齢者施設であるため一定の面会制限を行っているので、思うように交流はできませんでした。夏祭りに合わせて太鼓クラブをお呼びし演舞を披露して頂きました。感染症に配慮し地域との交流や活動が行っていけるようにしたいと思えます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くはないが、電話での問い合わせや施設入所についての助言を行っている。認知症の研修や日々の実践で培った技術を地域に活かせる機会を持ちたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、地域包括支援センター、民生委員、地域代表者、参加希望のあるご家族様を交え、情報交換や活用の評価などを行っています。地域の会館をお借りし会議を実施することで地域貢献につなげています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の集団指導はオンラインで参加している。管理者連絡会へ参加していましたが、今年度はすべて中止になったので、都度疑問に思うことやわからないことがあるときに問い合わせしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を実施し「虐待防止・身体拘束排除マニュアル」を取り入れ、研修会を実施し拘束を行うことにより、どのような影響があるのか等理解を深めている。ケアの実際で職員同士声を掛けあい不適切ケアが無いよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に「虐待防止身体拘束排除マニュアル」にて研修会を開き日常のケアにおいての言葉遣いや介助の行い方で不適切なケアになっていることを伝えている。常に意識し防止に努めている。		

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を使っていらっしゃる入居者様がいいらっしゃるので良い機会になった。入居者様一人ひとりの尊厳を保持し、安心して暮らしていけるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書に基づいて説明を行い疑問や不安が無いかを確認している。また、改定等があったときには、説明を行い同意をえています。退居時も、退去先への継続的な支援をして頂けるよう情報提供している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様が意見を言いやすい様、些細なことでも相談や報告を行うよう心掛けている。ケアプラン更新時にもご要望をお聞きしている。運営推進会議の年間のテーマをお知らせし出席できないご家族様のご意見も会議に反映させるよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員と面談を行い不満や思い等聴き話し合っている。都度、提案や意見をもらい反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人職員と管理者で契約更新時、職員と面談し勤務状況や要望の把握に努めている。時間外についても出しやすい環境に努め処遇改善手当についても毎月の給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し個人によっては、時間を掛ける、外部や内部の研修に参加させたり、初任者研修や実務者研修を受講させスキルアップが出来るよう取り組んでいる。また、研修で得た知識を施設内で伝達研修を行い共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修に参加し意見交換をしている。法人のグループホーム運営推進委員会にて、各グループホームの委員が集まり情報交換や意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談させて頂き不安や困っている事、要望に耳を傾け安心できる関係作りに努めている。入所後は大きく環境が変わるので関りを多く持てるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から、不安や要望をお聞きし不安が軽減できるよう、出来る限り意向に添うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人やご家族の意向を踏まえ、主治医やソーシャルワーカーの意見も参考にし必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとり能力や好みに応じ、食事の支度や掃除など日常生活の中で活躍の場を提供し、無理なく役割が持て自信を持った暮らしができるよう支援しています。入居者様と職員の良い関係を構築している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間制限はありますが、対面での面会を行ったり広報やお便りなど送りホームでのご様子を伝えている。また、ご家族様が参加できる行事への声掛けを行いご本人と一緒に時間を過ごせる機会を増やしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症が懸念される為、外部との交流は見合わせている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格やそれぞれの関係性を把握し職員がさりげなく関わりながら入居者様同士良い関係が築けるよう支援している。一人が好きに入居者様には、無理強いせず自分のペースで過ごせるよう支援している。また、孤立しないよう皆で楽しめるレクリエーション等を考え行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了されたご家族様にもいつでも連絡できるようお声がけし、ご家族からの相談があれば、施設で出来る範囲の支援は出来る事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から、ご本人の思いや意向をくみ取り意思疎通が難しい方でも表情や行動、生活歴やご家族様から情報を頂いたりして、カンファレンスやミーティングで話し合い意向に添った支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様や関係機関からこれまでの暮らしの情報を頂き入居後もご本人との関わりの中で可能な範囲で馴染みの生活に近付けるように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察、記録を行い現状の把握に努め職員間で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の過ごし方、ご本人の言動、職員の関わり方に関する反応や活動でのご本人の力量などカンファレンスで話し合い、ご家族様とは電話や面会時にご意向をお聞きし医師や訪問看護師の助言も踏まえ介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一週間を通して毎日の様子が分かるよう記録し情報を職員間で共有している。特記事項については細かく介護記録に記載している。変化への対応や必要性を踏まえ介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な訪問診療以外に、突発的な受診の対応やご家族様の状況に合わせて受診送迎等を行っている。その時々状況に合わせてご本人が安全、安心であるよう柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は、コンビニや洋服を買いに商業施設へお連れしていましたが、現在は人混みを避け公園の散歩や屋外での活動を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から定期的に医師の訪問診療がある。また、希望される病院受診の時は、ご家族様対応になりますが、外出準備送迎等の支援を行っている。		

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師の訪問相談があり、日常の変化や状況を報告し、医師の指示や必要であれば、受診へつなげられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に必要な情報を提供し、入院治療中には回復状況や退院のめどについての情報を得て、医療機関と連携しながら、早期退院へつなげている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、「入居者様の病状が重度化した場合の医療体制指針」について説明し、協力医療機関やソーシャルワーカーと連携しながら、ご家族様と相談し意向に添うように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時や事故発生時の対応について、マニュアルを整備している。救命救急の講習にも参加し緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。夜間想定避難訓練は毎年行っている。災害時の備蓄品等も整備している。 地震などの災害を想定し3ユニット合同で実施をしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄、食事等日常のケアにおいて、プライバシーに配慮した言葉かけ等入居者様の意志を尊重した対応をしている。入居者様への対応が職員間で共有できるようミーティングで話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや一人ひとりの状態に合わせて選択できるようにしている。意思疎通が難しい方は表情や仕草から思いをくみ取るようにしている。入居者様が思いや希望を表し易い環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし体調やその日の状況や気分に応じて臨機応変に対応し、できるだけ希望に沿うよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や訪問美容師でのカットや毛染めの手配など対応している。日々の整容では髪を梳かす、髭を剃る、爪を切る等支援している。		

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮をむいたり、刻んだり味付けやホットプレートで焼いて頂く等、入居者様も巻き込むことで食への興味を持ってくださっています。コミュニケーション取りながら、職員や他利用者様と食事をした後片付けも手伝って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社より、栄養士が作った栄養バランスの良いメニューに添って、材料が届きます。食事形態もお粥やミキサー食、トロミなど食べる方に合わせて提供している。水分チェック表を活用し水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い磨き方が不十分な方には仕上げ磨きをさせて頂いています。夜間は義歯を預かり洗浄剤で消毒し、歯磨きコップや歯ブラシの消毒を行い、清潔を保っている。協力歯科の医師や歯科衛生士に清潔に保つための助言を頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け、誘導を行い排泄の失敗を減らすように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因やその及ぼす影響を理解し、水分摂取や食事の工夫など自然排便を促すようにしている。腹部マッサージや体操も取り入れている。栄養士にも相談し食物繊維なども取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目安にしているが、その日の気分や体調に応じて対応している。気持ちよく入浴して頂けるよう個人の希望に合わせた支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝食後に自ら休む方や日中、疲労感ある方は居室で休息をと取る入居者様もおられます。生活リズム、睡眠リズムを整えて頂く為の取り組みを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表を活用し、飲み忘れや間違いが無いかに注意している。効能や副作用について 処方箋は個人ファイルに綴ってあるのでいつでも見られる環境にあります。ふらつき等強く出るようなときは注意喚起しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見つけ無理なく役割を持つ(食器拭きや掃除等)活躍できる場を提供している。お酒などの楽しみごとともご家族様と相談しながら提供しています。レクや外気浴などで気分転換を図っている。		

グループホーム白石館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年度は、外出行事として北海道博物館に出かけたりしています。春先になると桜を見に散歩に出かけています。その時々や入居者様の気持ちに寄り添い外出できるようにしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと金銭管理は行わず、外出時の買い物があれば建て替えを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をご家族や知人に出したり、出すための支援(住所を書いて差し上げる等)を行っている。電話も相手の迷惑でなければ取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、温度、湿度など適宜調節している。入居者様と一緒に季節の飾り物を作り、フロアや廊下に飾り居心地の良い空間作りを心掛けている。場所が分かるための札付けの工夫など安全且つ清潔に配慮した空間づくりを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファやテーブルが置いてあり、気の合う方たちとお話をしたりカウンター席で一人で過ごすこともできるよう工夫している。基本的には自由に居場所を選んで過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し日頃より使い慣れたもの馴染みの物を持参されるよう説明しています。写真や思い出の品を飾り安心して生活する事が出来るよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがありトイレやお風呂が分かりやすい目印がついており、車いす用の洗面台も設置している。安全に生活できるよう環境の整備に努めている。		